

第1回 世田谷リング会議 意見に対する回答

A 空間 特質 の 継 承	① 空間特質の継承として、ケヤキ並木、ピロティ、広場という流れがあるがその3つをどう考えているか。	<ul style="list-style-type: none"> ケヤキ並木、ピロティ、広場と連続する空間を継承し、発展する空間づくりを行います。
B 広 場 ・ リ ン グ テ ラ ス	<p>① デッキが張り出している印象 → 広場が狭いという印象を受けた</p> <p>② 中央通りが広場化されることによって、広場の面積は確保できるという考えなのだろうけど、狭く感じる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> デッキ（テラス）の張り出しを縮小して、広場の天空部分を拡張し、区道部分を一体的に利用することと合わせて、約2,250㎡（現状1600㎡）とします。 区民会館に近いケヤキと北側（地下車路西側部分）のケヤキを保存します。
	③ デッキの角は丸くすると柔らかい印象となる	<ul style="list-style-type: none"> 道路の上は構造上の制限により、テラスを直線状にする必要があります。手摺形状を工夫するなど、デザインや設えの工夫を行います。
	④ 広場にデッキの柱が立つのであれば広場が狭く、使いづらくならないか。	<ul style="list-style-type: none"> テラスの柱が必要な場合は、構造上、デザイン上の工夫を行い使いやすくします。 テラス下は、雨天時でのイベント利用や、日陰の休憩スペースとして有効です。
C ケ ヤ キ ・ 緑 化 空 間	① ケヤキの高さはどれくらいあるか調べているか。	<ul style="list-style-type: none"> 約7～17mの高さで全28本のケヤキがあり、樹木医による診断を行っています。
	<p>② 東側のケヤキは残るのか。ケヤキの木が少なくなる感じ。</p> <p>③ ケヤキがどうしても残せないような部分については道路境界に沿った敷地に植樹して建物全体がケヤキに囲まれる雰囲気を作り出せないか。</p> <p>④ 区民会館前4本のケヤキの内会館に最も近い木はデッキを貫通させて残せないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 東側のケヤキはできる限り保存するとともに、東2期側にも新たに植樹し、国士館大学までケヤキ並木を延長します。 広場側の区民会館前のケヤキは、リングテラスの幅を調整し保存します。 その他、広場のケヤキは移植を行い保存します。

第1回 世田谷リング会議 意見に対する回答

	<p>⑤ ケヤキが現在何本あって何本切るのかということをはっきりとしていただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全 28 本の内、樹木医の診断から、樹形、樹勢など健康状態が悪く、転倒の可能性があるので保存や移植に適さない樹木 5 本、また、建築計画にあたるもの 1 本を伐採します。なお、健康状態が悪く伐採するものについては伐採後、同じ位置に新植を行います。 ・今あるケヤキ並木を北側に延ばすなど、全体として今ある本数より多くします。
	<p>⑥ 西側の屋上空間の緑にスロープで上がっていけると良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・屋上庭園の開放については今後、区側と管理、安全面を含め検討します。
<p>D 水 辺 空 間</p>	<p>① 水辺空間を積極的に生かしてほしい。 ② 生きた川が区庁舎の中にあれば木や水のある憩いの場所となり、職員にとってもストレスなく仕事ができる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・南側サンクンガーデンの池は保存再生し、区民会館ホワイエやロビーと吹抜けで連続した空間をつくり、豊かな区民スペースを形成します。 ・現在の噴水は、東側の道路整備（新設バスベイ）や歩行空間の整備に支障となるため撤去します。 ・新たな水辺空間は、安全性、衛生管理面などを考慮し検討し、新たな潤い空間を提案してまいります。
<p>E ピ ロ テ ィ</p>	<p>① ピロティの天井高をもっと高くしてほしい。 ② 天井高は東側からは低くしたいけれども、中庭側からは高くなるような、見え方の印象なのか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピロティの天井高は、既存（約 3.7m）より高くします。 ・ピロティは 2 階の一部を屋外テラスにするなどにより、2 階部分も開かれた明るい雰囲気的空間構成を行い、新庁舎の顔として相応しい設えを行います。
<p>F ユ ニ バ ー サ ル デ ザ イ ン</p>	<p>① エレベーターはもう少し広めになるといい。 ② 2 階ピロティ（デッキ）にはエスカレーターでベビーカーや車いすが移動できるようなスロープがあると良い。 ③ スロープが屋上空間。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基本設計中にユニバーサルデザイン検討会に参加し、障害者団体や様々な方の意見を伺いながら、誰もが使いやすい施設を目指します。

第1回 世田谷リング会議 意見に対する回答

G バス ベイ	① バスレーンのスペースが狭いので、東棟の東側建物ラインを内側に入れないと入らないのでは。	<ul style="list-style-type: none"> バスベイ、歩道幅、ケヤキ並木の空間を確保するための検討から、建物の東側外壁面を後退させる考えです。
	② 将来的に梅ヶ丘から自由が丘に抜けるバスルートが想定されていることもあり、西敷地南西側にバスベイ設置を検討できないか。	<ul style="list-style-type: none"> バスベイについては、バス事業者や交通管理者である警視庁と協議を進めています。 バスベイ設置の条件があり、現在、周辺の道路幅員、交通量、周辺建物状況を考慮し、安全で利便性の高い東敷地(区役所通り)で検討しています。
H 外 観	① 既存建物の低層のたたずまいが一部中層になるということで、どう雰囲気が変わるか。	<ul style="list-style-type: none"> 広場に面する建物は、中央広場空間への影響の少ない、5階建ての低層に抑えた計画(東1期棟10階)です。 3階以上(4、5階部分)の壁面を後退させ、広場や周辺への高さ感を低減します。 広場に面した低層3層は、吹抜けや透明のサッシにより、明るい賑わいある空間としていきます。
	② 既存区民会館は垂直構成の外観であるの対し、デッキなどの水平要素の組み合わせをどのように処理するか。	<ul style="list-style-type: none"> 区民会館は折板構造の垂直に加え、庁舎、区民会館ともにテラスの水平要素が施されたデザインとなっています。 新庁舎においても、水平と垂直のバランスをとったデザインを検討します。
I 区 民 会 館	① 区民会館の地下に練習室への動線について、客、出演者側の両方について提示してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 練習室の利用者はホール利用者とは独立した動線を確保します。出演者が利用できるよう南側に新たな専用通路を確保します。詳細は今後お示しします。
	② 過去に区民会館の屋根(天井)が落ちたという意見があったが事実確認を行ってほしい。	<ul style="list-style-type: none"> 過去に区民会館の管理をしていた職員に確認をしたところ、1983年(昭和58年)のホール内部改修工事において、鉄骨部材の溶接作業時の火花によって、客席を延焼する事故があったが、天井が落ちた、という事故は発生していないと聞いております。 また、リング会議の委員がお話された、事故があった時期とは1970年頃と推測されますが、40年以上前の話であり、状況確認は難しいかと思われませんが、何か情報が得られましたら、改めてご報告させていただきます。(世田谷区)

第1回 世田谷リング会議 意見に対する回答

<p>Ｊ 災害時の 安全性</p>	<p>① 災害時における対応ができる庁舎にすることが最もプライオリティが高いと思う。</p>	<p>(世田谷区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模災害時には、本庁舎は、災害対策本部として、区の災害対策の中核管理機能を果たすための必要な機能を備えた、災害に強い庁舎を目指します。各総合支所に設置する災対地域本部と連携して対応していくとともに、避難されてくる区民の方を広域避難場所である国士舘大学一帯に適切に誘導する機能も備えます。 そのため、災害時の庁舎の使い方も想定して、基本設計を進め、大規模地震発生直後から速やかに災害対策本部等として機能するよう整備していきます。 <p>(佐藤総合計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本庁舎は免震構造により大地震でも庁舎機能を維持します。 ・ゲリラ豪雨に対して、浸水対策を十分に行います。 ・インフラ供給が停止した場合でも、発電機などバックアップ機能を確保し、業務継続ができる庁舎を実現します。
<p>Ｋ 建物規模</p>	<p>① 将来の人口動態を見越した適正な規模を共有して欲しい。</p>	<p>(世田谷区)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区は平成3年度より、地域行政制度を創設し、地域住民に密着した地域行政を推進してまいりました。地域行政制度における三層構造において、本庁舎は、区としての政策方針、計画など全区的な統括を行うことを基本に、集中化によるメリットがある事務など、行政サービスの実施機関としての機能も担っております。また、世田谷区民会館は、全区的な区民交流、イベントの場としての役割を果たすことが求められており、さらに世田谷総合支所としての機能も併せ持っています。さらに、災害時には、本庁舎は本部長を中心とした災对各部の活動場所として、揺るぎなく機能する災害対応指令基地であり、世田谷地域における災対

第1回 世田谷リング会議 意見に対する回答

		<p>地域本部の機能も併せ持っています。</p> <p>世田谷区として必要な職員数や庁舎の規模について、人口動向や、地域行政の推進による減要素と都区制度改革と権限の移譲による増要素などを踏まえて、これまで議論を重ね、基本設計方針としてまとめたところです。なお、職員一人当たりの行政機能面積は約 17.7 m²で他区と比較するとコンパクトな数字となっています。</p> <p>(佐藤総合計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 世田谷区から示されている規模要件に基づいて検討していますが、将来の変化にも対応しやすいフレキシブルな庁舎を目指します。
<p>設計の進め方</p>	<p>① 建物のボリュームとか高さとか出入りとかを決めてから配置計画を考えたほうが良い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 区側の設計要件として、70,000 m²の庁舎等になるように示されています。これを満たすため、建物のボリューム、高さ、動線については、今回お示ししたとおりでございます。